

<創立 40 周年にあたって>

## 海藻押し葉標本収集品

輪島 毅・中西 敏之

当社設立40周年という節目を迎え、微力ながら輪島、中西の2名で共同寄稿することとしました。輪島が本文と一覧表を、中西が標本整理と写真撮影を担当しました。

私たちは潜水作業に携わってきたこともあり、ルーチン業務とは別に時間をやりくりしながら機会があるたびに海藻押し葉標本を作成してきました。これまでに収集・整理した標本は200種以上、1000点ほどとなっています。ここに、その一覧を表1～4と写真で公開します。押し葉標本一覧は分類群別に五十音順で示します。和名は標本に貼ってあるラベルの通りに示し、「ヅ」「ズ」などは統一されておられません。標本の数量、採集日および採集者は省略しました。まだ種の同定に至っていないものについては、今後の課題としています。

標本は、自社研究の平成13年実施「東京湾藻場分布調査」、平成18年実施「小湊の海藻植生」で作成したものや、東邦大学名誉教授・吉崎 誠先生（平成23年9月10日にご逝去）にご教授いただいた「海藻学校」で作成したもの、過去に在籍した外国人社員が採取したものも含まれています。そのほかは私事で様々な海岸に向いて採取したものです。特に、行楽に便乗したものは同行者の気分を害したことが多く、今さらながら申し訳ない気持ちになっています。この場を借りて、深くお詫びしたいと思います。

標本の同定は基本的に自分たちで行いましたが、一部は専門家に鑑定していただきました。鑑定をお願いしたのは北海道大学名誉教授・吉田忠生先生、国立科学博物館・北山太樹先生、九州大学教授・川口栄男先生、そして吉崎 誠先生です。出来の悪い標本に

もかわらず快く鑑定して下さった先生方に、たいへん感謝しております。吉崎標本の8万点に比べれば、私たちの1000点など微々たるものですが、それでも私たちにとってはすべて思い出深く大切なものとなっています。なお、光栄かつ恐縮ながら北山太樹先

表1 押し葉標本一覧（緑藻綱）

●は鑑定済み、★は写真掲載したもの

和名	採集地（県名等）	鑑定	写真
アオサ属	千葉		
アオノリ属	千葉、グアム		
アオモグサ	静岡、石垣島	●	★
アオモグサ科	グアム		
アナアオサ	千葉、静岡	●	★
ウスバアオノリ	岩手、千葉	●	
オオシオグサ	千葉	●	★
オオハネモ	千葉	●	★
クロミル	静岡		
コケイワヅタ	静岡		
サイノメアミハ	グアム		
シオグサ属	愛知		
センナリズタ	石垣島		
タカノハヅタ	フィリピン、グアム		
チャシオグサ	千葉、静岡	●	★
ナガアオサ	千葉	●	★
ハネモ属	千葉		
ヒメアオノリ	千葉		
ヒメヅタ	グアム		
ヒラミル	千葉	●	
ヒロハサボテン グサ	石垣島、グアム		
フサイワズタ	静岡、新潟		
フデノホ	インド		
フトジュズモ	千葉	●	
ボタンアオサ	千葉、静岡	●	★
ミル	千葉、愛知	●	
ヨレズタ	石垣島		

押し葉標本 (一部)

● 緑藻 ● 褐藻 ● 紅藻 ● 海草 (スケールは 10 cm)



● アオモグサ



● アナアオサ



● オオシノグサ



● オオハネモ



● チャシノグサ



● ナガアオサ



● ボタンアオサ



● ウスカヤモ



● エゾフクロ



● コモングサ



● サナダグサ



● フトモズク



● アイヌワカメ



● エナガコンブ



● カジメ



● ガツガラコンブ



● ゴヘイコンブ



● スナビキモク



● トロロコンブ



● ナガコンブ



● ネコアシコンブ



● ホッカイモク



● ワカメ

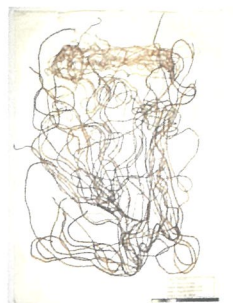


● イカノアシ



● イソハギ





● オオオゴノリ



● オオシコロ (脱灰処理後)



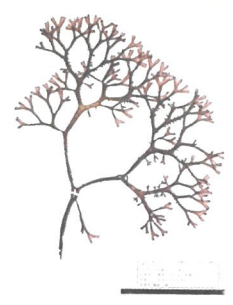
● オオバキントキ



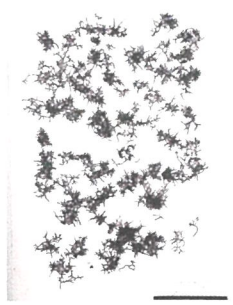
● オオムカデノリ



● カギイバラノリ



● コトジツノマタ



● サイミ



● タンバノリ



● ツツレグサ



● ナガウブゲグサ



● ニクムカデ



● ハネサイミ



● ヒカゲノイト



● ヒラコトジ



● ヒラムカデ



● フクロツナギ



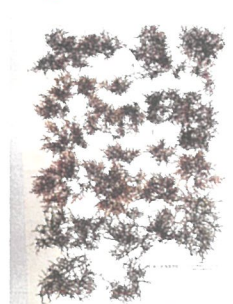
● フサノリ



● ミリン



● ヤツデガタサカモドキ



● ワツナギソウ



● アマモ



● ウミヒルモ



● エビアマモ



● コアマモ



● スガモ

表2 押し葉標本一覧 (褐藻綱)

●は鑑定済み、( ) は助言いただいたもの、★は写真掲載したもの

和名	採集地 (県名等)	鑑定	写真
アカバウミウチワ	黒島		
アミジグサ	千葉、静岡	●	
アミジグサ属	グアム		
イシゲ	千葉	●	
イシモズク	新潟		
イソガワラ科	千葉		
イロロ	千葉、静岡	●	
イワヒゲ	千葉、静岡	●	
ウスカヤモ	静岡	●	★
ウスバウミウチワ	グアム		
ウミウチワ	千葉、静岡	●	
エゾイシゲ	北海道	●	
エゾフクロ	北海道	●	★
エゾヤハズ	岩手	●	
オキナワモズク	石垣島		
カゴメノリ	千葉、静岡	●	
ケウルシグサ	岩手	●	
コナウミウチワ	新潟		
コモングサ	千葉、鳥取	●	★
サキビロアミジ	愛知		
サナダグサ	千葉、愛知	●	★
シオミドロ科	千葉		
シマオオギ	静岡		
シワノカワ	千葉		
ネバリモ	千葉		
ハバノリ	千葉、静岡	●	
ヒバマタ	北海道	●	
フクリンアミジ	千葉県、式根島	●	
フクロノリ	千葉、静岡	●	
フトモズク	岩手、千葉	●	★
ヘラヤハズ	千葉、静岡、新潟		
ミツデクロガシラ	千葉	●	
ムチモ	静岡、愛知	●	
ヤハズグサ (ヘラヤハズ含む?)	千葉		
ヨツデクロガシラ	千葉	●	
ワタモ	岩手	●	

和名 (大型褐藻類)	採集地 (県名等)	鑑定	写真
アイヌワカメ	北海道	●	★
アズマネジモク	千葉、静岡	●	
アラメ	千葉	●	
アントクメ	静岡		
イソモク	千葉、静岡	●	
ウミトラノオ	岩手	●	
エゾノネジモク	岩手	●	
エナガコンブ	北海道	●	★
オオバノコギリモク	神奈川	●	
オオバモク	千葉	●	
カジメ	千葉	●	★
ガツガラコンブ	北海道	●	★
ゴヘイコンブ	北海道	●	★
スナビキモク	千葉、神奈川	●	★
タマナシモク	式根島		
タマハハキモク	岩手、千葉	●	
ツルアラメ	青森	●	
ツルモ	岩手	●	
トゲモク	岩手、静岡、新潟	●	
トロロコンブ	北海道	●	★
ナガコンブ	北海道	●	★
ナラサモ	千葉	●	
ネコアシコンブ	北海道	●	★
ノコギリモク	新潟		
ヒジキ	岩手、千葉、静岡	●	
フシスジモク	岩手	●	
フタエモク	静岡		
ホツカイモク	北海道	●	★
ホンダワラ属	フィリピン、グアム		
マメタワラ	静岡		
ヤツマタモク	千葉	●	
ヨレモクモドキ	静岡		
ラッパモク	石垣島		
ワカメ	千葉	●	★

生から保管を承った「日本産海藻類エキシカータ (博物館間の世界的な交換標本)」の重複品については、いうまでもなく社の宝として別格扱いとなっており、私たちの1000点の中には入れておりません。また、学生時代に収集したのも除いてあります。

これらの標本は社の書庫に収納されています。札幌支店・岸林秀典が多くを作成したほか、標本番号およびリスト作りは吉澤 忍、有松 健の協力を得ました。

通常、企業ではこのような標本は雑書類として個人管理になると思いますが、当社では社長・岡 健司、専務・大屋二三容認のもと、社としての保管が許されました。

今後、社内外への貸し出しなどによって広く活用されれば幸いです。数年前、大阪支店長・今尾和正への社内貸し出しが初回でしたが、その時はうれしい限りでした。

表3 押し葉標本一覧(紅藻綱)

●は鑑定済み、( )は助言いただいたもの、★は写真掲載したもの

和名	採集地(県名等)	鑑定	写真
アカバ	岩手	●	
アクロケチウム科	千葉	●	
アマノリ属	千葉		
アヤニシキ	静岡		
イカノアシ	静岡	●	★
イギス	岩手	●	
イギス科	千葉		
イギス属	千葉		
イソダンツウ	千葉、静岡、新潟	●	
イソハギ	千葉、新潟	●	★
イソマツ	千葉	●	
イソムラサキ	岩手、千葉	●	
イトグサ属	千葉、静岡、愛知		
イトフノリ	岩手	●	
イバラノリ属	千葉、新潟		
イボツノマタ	岩手、千葉、静岡	●	
イボノリ	北海道	●	
イワノカワ科	千葉		
ウスカワカニノテ	千葉	●	
ウブゲグサ	グアム		
エゾシコロ	千葉	●	
エゾトサカ	北海道	●	
エナシダジア	新潟	●	
オオオゴノリ	千葉、静岡	●	★
オオシコロ	千葉	●	★
オオバキントキ	神奈川、愛知	●	★
オオブサ	千葉、静岡	●	
オオムカデノリ	神奈川	●	★
オキツノリ	愛知		
オゴノリ	千葉、静岡、愛知	●	
オゴノリ属	千葉、インド		
オニクサ	千葉	●	
カイノリ	千葉	●	
カギイバラノリ	千葉、神奈川、静岡	●	★
カギケノリ	静岡		
カギヒメゴケ	千葉		
カザシグサ	新潟		
カサマツ(?)	グアム	(●)	
カズノイバラ(?)	静岡	(●)	
カバノリ	千葉、神奈川、静岡ほか	●	
カモガシラノリ	静岡		
ガラガラ属	石垣島	●	
キヌイトグサ	千葉		
キョウノヒモ(?)	新潟	(●)	
キントキ	千葉、静岡		
クロソゾ	千葉		
ケハネグサ	千葉、式根島	●	
コザネモ	千葉		

和名	採集地(県名等)	鑑定	写真
コスジフシツナギ	鳥取		
コトジツノマタ	千葉	●	★
コメノリ	千葉	●	
サイミ	静岡	●	★
サクラノリ	千葉、愛知	●	
シキンノリ	愛知		
シマダジア	千葉		
シマテングサ(?)	グアム		
ジュズガラガラ(?)	静岡		
ショウジョウケノリ	岩手	●	
シラモ	静岡		
スギノリ	千葉		
スジウスバノリ	神奈川	●	
ソゾ属	千葉、静岡、新潟ほか		
タチイバラノリ	千葉	●	
タンバノリ	千葉、静岡	●	★
チリモミジ	千葉		
ツカサアミ	静岡		
ツツレグサ(イソノハナ?)	黒島	●	★
ツノマタ	愛知		
ツノムカデ	静岡		
ツルツル	神奈川	●	
テングサ科	石垣島		
トゲイギス	千葉、静岡		
トゲノリ	グアム、インド		
トサカノリ	静岡		
トサカマツ	千葉		
トサカモドキ属	千葉		
ナガウブゲグサ	神奈川	●	★
ニクサエダ	千葉		
ニクムカデ	静岡	●	★
ニセフサノリ	千葉、神奈川	●	
ハイウスバノリ属	千葉		
ハナフノリ	千葉、式根島		
ハネサイミ	静岡		★
ハネソゾ	千葉		
ハリイギス	千葉		
ハリガネ	千葉	●	
ヒカゲノイト	新潟	●	★
ヒトツマツ	千葉、式根島	●	
ヒラガラガラ	千葉		
ヒラクサ	千葉、静岡	●	
ヒラコトジ	北海道、静岡	●	★
ヒラムカデ	静岡	●	★

(次ページに続く)

表3 押し葉標本一覧 (紅藻綱) (続き)

●は鑑定済み、( ) は助言いただいたもの、★は写真掲載したもの

和名	採集地 (県名等)	鑑定	写真
ピリヒバ	千葉		
ヒロハノトサカモドキ	神奈川、愛知	●	
フクロツナギ	神奈川	●	★
フクロフノリ	千葉		
フサノリ	神奈川、静岡	●	★
フシクレノリ	グアム		
フシツナギ	千葉、神奈川、静岡	●	
フジマツモ	岩手	●	
フタツガサネ	千葉		
フダラク	岩手、千葉、神奈川ほか	●	
フトイギス	千葉		
ベニスナゴ	神奈川、愛知	●	
ベニタサ	北海道	●	
ベニフクロノリ	北海道	●	
ホソアヤギヌ	千葉	●	
ホソバナミノハナ	静岡、新潟、フィリピン	●	
ホソバノトサカモドキ	千葉、神奈川	●	

和名	採集地 (県名等)	鑑定	写真
マクサ	千葉、神奈川、静岡	●	
マルバツノマタ	新潟		
ミゾオゴノリ	千葉、静岡	●	
ミツデソゾ	新潟	●	
ミリン	千葉、静岡	●	★
ムカデノリ	千葉、神奈川、静岡ほか	●	
ムカデノリ属	愛知、新潟		
モカサ属	千葉		
モサズキ属	千葉		
ヤツデガタトサカモドキ	神奈川	●	★
ヤハズシコロ	千葉		
ユカリ	千葉、神奈川	●	
ユナ	千葉、静岡	●	
ユルチギヌ属	フィリピン		
ランゲリア	新潟		
ワツナギソウ	千葉、神奈川	●	★

表4 押し葉標本一覧 (海草類その他)

●は鑑定済み、★は写真掲載したもの

和名	採集地 (県名等)	鑑定	写真
アマモ	千葉、神奈川	●	★
ウミジグサ	インド		
ウミヒルモ	千葉、静岡、インド	●	★
エビアマモ	千葉	●	★
コアマモ	千葉、神奈川	●	★
スガモ	千葉	●	★
タチアマモ	神奈川		
マツバウミジグサ	インド		
リュウキュウアマモ	インド		
藍藻綱	グアム		

ここで吉崎語録から名言をひとつ。「間違いを教えるのとウソを教えるのは全然違う！」その時はおっしゃっている意味がよくわかりませんでした。しかしながら、海藻を同定し、標本にラベルを貼り、収集してきた中で、その違い、そして両者を混同する弊害が何なのかを繰り返し考えるようになりました。海藻に

限らず、種の真相を究明する上でどちらが罪深いのかなど、在りし日の吉崎先生は言及されず、もはやその真意を教えていただくことはできません。「ウソ」という単語の方が罪深いようにみえますが、みなさまはどのように思われますか？ なお、当時の余談として、吉崎先生からは「エビアマモ群落には時期によってはエビがたくさん集まってくる！」とも教わりましたが、私はこの冗談(ウソ)を真に受けて、「間違い」としてそのまま人に伝えてしまったことがあります。

最後に少々ご案内を…海藻押し葉標本の写真などが必要な場合には、ご用命いただければその都度撮影いたします。また、試料をいただければ業務として標本作成を承ることもできますので、写真だけでなく実物入手されるのも趣が深いのではないかと考えております。「写真撮影業務」ないしは「標本作成業務」というように「…業務」と名がつけば今よりも日の当たる作業になりそうなので……。